

平成 21 年度 (2009 年度)

## 支援教育に関する研究

今年度は、各小中学校から支援教育コーディネーター及び支援学級担任が参加し、スーパーバイザー佐藤 暁先生を講師に支援教育担当者会を年間 11 回実施。その内容をまとめた。

### 研 究 員

箕面小学校

止々呂美小学校

萱野小学校

北小学校

東小学校

西小学校

南小学校

西南小学校

萱野東小学校

萱野北小学校

中小学校

豊川南小学校

豊川北小学校

第一中学校

第二中学校

第三中学校

第四中学校

第五中学校

第六中学校

止々呂美小学校

スーパーバイザー

岡山大学大学院 教授 佐藤 暁

## 1. はじめに

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や必要な支援を行うものである。

平成19年度からは改正学校教育法の実施により、全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校において、支援体制の整備が進められている。

平成20年度より、文部科学省・大阪府「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」の指定を受け、各学校における体制整備及び関係部局や機関の連携協力による地域の支援体制整備等、総合的な推進を行う取組を推進する。

## 2. 今年度の取り組み「支援教育担当者会」について

本年度は、平成17年度、平成18年度に実施した「特別支援教育コーディネーター養成講座」平成19年度、平成20年度の「支援教育コーディネーター連絡会」の発展形として、「支援教育担当者会」と名称変更し、参加対象を支援学級担任及び支援教育コーディネーターとし、参加する先生方の要望を踏まえ、支援学級担任、または、支援教育コーディネーターとしての基礎知識や実践的な内容の情報提供及び情報交換等を講座として設定した年間11回の講座を設定した。(表1参照)

今年度も、市外の講師にご協力いただくとともに、市支援教育巡回相談員の方々にも参加いただき、各校の具体的事例についてのアドバイスもいただきながら研究を進めた。

また、本市支援教育リーディングスタッフによる研修会や伝達講習会も積極的に行うとともに、各小中学校支援学級で実際に行われている指導内容の交流や教材教具の実物を持ち寄った交流なども行った。

さらに、教育センター支援教育研修(授業研修)とも連携し、『通常の学級でできるユニバーサルデザインの授業』についての研究や各校の交流も実施した。

### 平成21年度(2009年度)箕面市支援教育担当者会

目的：支援教育は学校教育全体の改革という観点を持って、本担当者会では、各校の取り組みの交流や事例検討などの研修を重ね、箕面市における支援教育の充実を図る。

(敬称略)

回	日時	研修テーマとその概要	対象	講師等
1	5月12日(火) 4:00~5:00 教育センター中研修室	支援学級担任の役割と 年間活動計画について	支担	
2	6月2日(火) 3:45~5:15 豊中市教育センター	《講演会》『大阪の教育力』向上プラン ~支援教育に関わって~ (平成21年度府支研総会・講演会)	支担 CN	府教育センター 羽谷 幸司

3	7月7日(火) 4:00~5:00 教育センター中研修室	《研修会》 『就学支援シート・進学支援シートの活用』 —支援学級在籍児童生徒のスムーズな 支援連携のために—	支担	市支援教育LS 雪吹 博
4	8月7日(金) 9:30~11:30 教育センター大研修室	《ワーク》 『個別の教育支援計画作成について』 —ICFを活用した個別の教育支援計画—	CN 支担	府教育センター 伊丹 昌一
5	8月25日(火) 2:00~4:00 グリーンホール	《講演会》 ～“困った子ども”ではなく“困っている子ども”～ 『発達障害のある子ども、気になる子どもの 理解と支援の実際』 (教育センター研修と合同開催)	CN 支担	植草学園短期大学 児童障害福祉専攻 佐藤慎二教授
6	9月1日(火) 3:30~5:00 教育センター中研修室	《研修会》コーディネーターの実践から学ぶ 特別支援教育を特別にしない取組 ～住道中学校の取組～	CN	大東市立 住道中学校CN 和阪 佳子
7	10月6日(火) 4:00~5:00 教育センター中研修室	《ワーク》～みんなで考えよう～ 「冊子『明日からの支援に向けて』を 活用した事例検討会」	支担	市支援教育LS 雪吹 博
8	11月4日(水) 4:00~5:00 教育センター大研修室	《交流会》支援学級における支援の実際 —指導内容の工夫及び教材・教具の交流—	支担	
9	12月1日(火) 4:00~5:00 教育センター中研修室	《交流会》小中連携〈中学校区ごとに〉 通常学級在籍で特別な支援が必要な児童生徒	CN	巡回相談員 大石 博子 支援教育相談員 山田 まどか
10	1月12日(火) 4:00~5:00 教育センター中研修室	《報告会》 府リーディングスタッフ研修報告 箕面市支援教育連携実務者会報告等	CN	市支援教育LS 雪吹 博他
11	2月2日(火) 4:00~5:00 教育センター中研修室	《まとめ》支援教育各校交流会 実践発表及び各校交流会	支担 CN	巡回相談員 大石 博子 松原 一恵

第1回目は、「支援学級担任の役割と仕事について」と題し、支援学級担任としての役割や通常の学級担任との連携、保護者や関係機関との連携、校内外における役割等を

確認した。初めて支援学級を担当する教職員にとっては、先輩の経験談やアドバイスが貴重な情報となった。また、本市が大切にしている支援教育の理念『ともに学び、ともに育つ』を再確認するとともに各校における支援内容や校内体制等を交流しあう良い機会となった。

第2回は、『大阪の教育力向上プラン』のより支援教育に関わる情報共有を目的として、府支援教育研究会総会の講演会に参加した。

#### 《講演の概略》

##### 大阪府における支援教育

「障がいのある子ども一人ひとりの自立をしっかりと支援する」との方針のもと、

- ・ 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- ・ 知的障がいのある児童生徒数の増加を踏まえた教育環境の充実や、児童生徒の将来の自立、就労をはじめとした社会参加への切実な思いを受け止めた教育を推進する。

(「大阪の教育力」向上プラン)

##### — 今後 取り組むべき課題 —

- 知的障がい支援学校等の教育環境の充実
- 府立高校における知的障がいのある生徒の学習機会の充実
- 小中学校における「ともに学び、ともに育つ」教育の推進
- 府立支援学校のセンター的機能の発揮
- 一人ひとりのニーズに応じた支援教育の充実
- 高等学校に在籍する障がいのある生徒への指導・支援
- 発達障がいのある幼児児童生徒への指導・支援

第4～6回の担当者会は、昨年同様、夏季休業中を利用して参加対象を各校の支援学級担任や支援教育コーディネーターに限らずオープン研修として市内教職員がだれでも参加できる内容の研修を実施した。

第4回は、大阪府教育センター支援教育研究室より伊丹昌一氏を講師に招き、『ICFを活用した個別の支援教育計画の作成』についての学習会を行った。

(ICFとは、WHO(世界保健機構)が、人間の生活機能と障がいを記述する「共通言語」とするため2001年に発表した、国際生活機能分類(ICF、International Classification of Functioning Disability Health)のこと。)

ICFの視点(社会生活を営む上での環境因子や個人因子を併せて検討する)で子どもの状態や支援をとらえ直すことで、障がいの特性にばかり気をとられることなく、「その指導や支援の成果を本人の生活の中で生かすことができているのか？」点検をしながら反省

することができるという効果があるだけでなく、「支援内容や方法について」確信したりでき、今後の展開にも考えが及ぶようになるという効果も期待されることが確認された。

第5回は、『発達障がいのある子ども、気になる子どもの理解と支援の実際』をテーマに、会場を市民会館大ホールとし、教育センター支援教育研修と合同開催し、市内幼小中の教職員のみならず、私立幼稚園や他市の幼稚園にも参加呼びかけを行い研修を行った。

第6回担当者会では、中学校での支援教育コーディネーターの実践から学ぶ『特別支援教育を特別にしない取組』として府内中学校の支援教育コーディネーターの実践を学んだ。

第7回担当者会では、「府研究冊子『明日からの支援に向けて』を活用した事例検討会」と題し、冊子の中からモデル事例を選んでグループワークを行い中学校での支援教育体制や具体的支援方法及び関係機関との連携について協議した。

第8回では、市内小中学校支援学級担任等が各校で作成使用している教材教具を持ち寄り、効果的な指導内容や活用法等についての交流を行った。

第9回では、通常の学級で支援を必要とする児童生徒について、中学校区ごとに交流を行い小中での支援連携についての話し合いを行った。

第10回・11回では、支援教育についての各校の実践を発表しあった。校内支援体制の工夫や組織改革、教室の環境整備、授業の導入の工夫、1日のスケジュール、授業の流れの視覚化、授業の流れのパターン化、授業の進め方の工夫、指示や説明の工夫、板書の使い方、一斉指示と個別指示、机間支援の工夫、視覚情報の提示、作業・運動動作の活用等…各校の工夫や実践が有効的に交流できた。

また、教育センター支援教育研修（授業研修）と連携し、通常の学級でできるユニバーサルデザインの授業についての研究を年間5回行った。

- ① 6月5日（金） なか幼稚園 4歳児 絵本「ちいさなきいろいかさ」  
『子どもの学びと育ちを保障する支援のあり方』  
講師；岡山大学大学院 佐藤 暁教授
- ② 10月8日（木） 南小学校 1年 国語 「かぞえうた」  
『子どもの学びと育ちを保障する授業のあり方』  
講師；大阪府教育センター 支援教育研究室 伊丹 昌一室長
- ③ 10月30日（金） 豊川南小学校 1年 国語 「ビーバーの大工事」  
『子どもの学びと育ちを保障する授業のあり方』

講師；岡山大学大学院 佐藤 暁教授

④ 11月16日(月) 第五中学校 1年 数学「二等辺三角形の性質」

『支援が必要な子どもの理解と具体的支援について』

講師；大阪大谷大学 小田 伸浩准教授

⑤ 3月2日(水) ひがし幼稚園 4歳児

『子どもの学びと育ちを保障する支援のあり方』

講師；岡山大学大学院 佐藤 暁教授

平成19年度より特別支援教育が本格的に実施され、実際の活動や取組みは支援学校や支援学級にとどまらず、通常の学級での取組み「授業のユニバーサルデザイン化」の視点が大切であると実感する。

ユニバーサルデザインとは、「一部の人のみが満足する設計ではなく、万人に通用する優れたデザインのこと」を意味する言葉であるが、日々行われる授業においても、LD等の子どもだけに考えつくされた授業ではなく、これらの子どもに「ないと困る」授業支援を徹底すればするほど、おのずとほかのどの子にも「あると便利な」授業方策となる。

今後も市全体、学校全体で「授業のユニバーサルデザイン化」について検討・実践していくことを継続的な研究課題としていきたい。